

# 株式会社 ひこうき雲



## 会社概要

○創立年月日 2007年7月5日

○本店所在地 東京都品川区

○代表 古賀恵美子

(キャリアデザインプロデューサー)

○ホームページ

<http://hikouki-gumo.net/index.html>

### 1. 学生への就職支援

・34年間の国内線・国際線のフライト経験と数多くの後輩育成、5年間の客室乗務員採用担当マネージャー経験等を活かし、求められる人物像を熟知しているキャリアデザインプロデューサーの古賀恵美子が直接就活を支援します。

・少人数制による一人一人の個性を伸ばす指導をし、社会にでて恥ずかしくないマナーを身につかせます。

・現役、内定者との懇談会を頻繁に組み入れ、生きた最新情報を提供します。

・JAL、ANAのCAの既卒、新卒試験では毎回複数名の合格者を輩出し、人気一般企業・難関企業等にも合格に導く等就職内定率はほぼ100%の実績があります。

### 2. オーダーメイドの社員研修

#### ■新人研修

内定者・新入社員向けにマナーや新社会人としての心がけを教えます。

#### ■中堅社員研修

今さら聞けない……中堅社員ならではのお悩みにこたえるべく、ビジネスマナーのブラッシュアップをいたします。

#### ■接遇マナー研修

サービス・接客業の方向けに、CA歴34年で培った体験を踏まえ、本物のマナーやホスピタリティについてお伝えします。

### 3. 講師活動・講演の実施

学生の就職活動やコミュニケーション能力アップを支援するセミナーを行っています。

・大学のキャリア支援セミナー

・正しい言葉遣いとビジネスマナーなど、講師・講演実績多数

第二の就職氷河期の到来で、学生たちの就職活動は、例年にも増して熱を帯びている。きれいな日本語が身につく、就職を支援する会社「ひこうき雲」（本社東京都品川区）で勉強する明治学院大学3年生の市川真菜美さんは、中学生時代からの夢という航空会社の客室乗務員（CA）を志望する明るなお嬢さんです。日本語検定2級の認定を獲得した努力家。今は教養とともに同社の就活コースで、言葉遣いに磨きをかけている。社会人への最初の関門が、「正しい敬語」といわれる。同社の講師で、元ミス日本、現役CAでもある織田浩美さんと市川さんに敬語を中心に日本語について、お話しをお聞きしました。

（インタビュアーは時事通信社記者・三橋信二）

## 【就活生の市川さんインタビュー】



市川真菜美 さん

明治学院大学国際学部国際学科 3年

日本語検定2級取得

## 《日本語検定の受検動機は、何ですか》

就職活動のために日本語を磨きたかったということと、ただ純粋に日本語が好きだからです。

就職活動をすると、やはり色々な方と触れ合うことが増えます。その際の相手へのマナーとして必要な点もありますし、「学生だから仕方ない」という印象を少しでも軽減して欲しいという思いもあります。

また、私自身が幼い頃からお琴や茶道など日本文化に触れる機会が多く、今所属しているゼミも「日本における表現」について学んでいるので、自ずと日本語検定には興味がありました。日本人ならば、まずは美しい日本語が話せるようになりたいと、常々思っています。

## 《言葉遣いで、日ごろ感じていることは》

私はアルバイトで塾の講師をしているのですが、中高生との会話はある意味、最先端の言葉が使われているため、それを知らないことで話がすれ違うことも珍しくありません。その時代の文化に影響されて変化していく言葉は、日本としての大切な履歴のように感じます。

# 株式会社 ひこうき雲

最近、電車の中で高校生が「あの授業、マジ、ダルビッシュ！」と会話していました。しかし、時と場合は弁えるべきです。塾で生徒の父母に接する時や電話応対などは細心の注意を払います。敬語でお話しする時に「マニュアル」なんてありませんから、付け焼刃の知識ではうっかり「素」が出てしまいます。また、間違った敬語が横行している時代だからこそ、日ごろから意識して敬語を学ぶようにしています。

## 《敬語を身につけるため、何か心掛けている事は》

心掛けていることは、普段から意識して敬語を見聞きすることと、相手を思いやる気持ちを持つことです。日常生活では、沢山敬語に触れる機会があります。例えば、朝いつも利用するコンビニやファーストフード店、レストラン、電車やバスの車内放送や広告など、他にも様々です。意識してみると「この敬語はちょっと・・・」「あ、こういう言い回しもあるのか!」「この言葉は言われたら嬉しいな」など、勉強になることが多いです。相手を思いやる気持ちを持つことは、敬語の本質だと思っています。私も日ごろから「日々感謝」を心掛けていますが、相手を大切に、敬意を抱いて接すれば自ずと言葉遣いや言葉のチョイスが綺麗になると思っています。

## 【講師の織田浩美さんインタビュー】



織田 浩美 さん

株式会社ひこうき雲 講師

日本語検定2級取得

## 《CAを目指す最近の学生を指導していて気付くことは》

目上の人と話すことに慣れていないので、どうしても言葉遣いに意識が集中してしまい表情が硬くがちがちになって、一番大切な笑顔が出ないことです。

## 《就職活動で、留意すべき言葉遣いとは》

敬語をきちんと使えることだと思います。社会に出てからは学生時代と違い、上司、先輩、取引先の方など敬語を使う機会はとて多くなります。「敬語が使える」ということは、コミュニケーションを取る上で最低限のマナーとして会社側は求めています。例えば、使い方がおかしい敬語だったり、学生言葉が混ざってしまったりで、相手に悪い印象を与えて信頼を得ることが出来なかったケースは度々、聞かれます。

敬語は使えて、当たり前。使えないと最悪の印象を与えてしまう。敬語は信頼を得るための尺度だと思いますし、会社はかなり重視しています。

# 株式会社 ひこうき雲

## 《若者は「敬語が苦手」といいますが、身につけるための方法は》

自分の強み、弱みが分かるので、日本語検定の勉強をして認定を受けることをお勧めします。知識でまず自信を得ることです。次に間違っても慣れていなくても敬語を使ってみること。家庭でも、ご両親や祖父母の方達は敬語のレベルは高いので身近な相手にチェックしてもらえます。敬語を話す回数を重ねることが一番ですね。

また、キャリアセンターや就職活動をバックアップしているスクールなどで、模擬面接に参加してみると客観的にチェックしてもらえ自分の課題が分かります。

## 《就職活動に日本語検定をどう役立てるのか》

企業が求める人材の重要な一つに「正しい敬語が使える人」ということが掲げられています。人となりを見るには、どの企業も面接試験を実施することで求める人材を探していきます。第一印象、笑顔、立居振る舞いなど視点は沢山ありますが、敬語が使えることは、即コミュニケーション力があると判断され、高い評価を得ることが出来ます。

日本語を学び、検定を受検し認定を頂くことで履歴書に書けますし、就職活動にも言葉遣いや敬語に自信を持ってチャレンジ出来ます。

日本語検定では、いろいろな領域で日本語力を試していますが、学生に役立つので言葉遣いと敬語の設問を手厚くしてほしいと感じております。

## 《CAとして「好印象を与える日本語」という観点から志望学生へのアドバイスを》

正しいきれいな日本語とは、「心がこもっている」言葉遣いが出来ることです。日本語が生きるということは、相手の心にしっかりと心地よく伝わるということ。日々、ご自身の話す日本語を大切にしてほしいです。私の子ども達にも、「人を傷つける言葉は言わない」など厳しく躾けています。